

■いよいよ推薦入試



11月1日(月)から各大学、短大、専門学校で指定校制や公募制といった学校推薦型選抜の受付が始まるところが多いものと思われます(※すでに始まっているところもあるかもしれません)。今年度は、学年集会で説明する機会がなかなかないため、下に細かい部分についても記載しています。よく読んで間違いのないよう、余裕を持って準備を進めるようにしましょう。

すでに担任の先生を通して、何度も伝えていただいているものと思いますが、基本的に、「指定校制」を受験する場合には、専用の要項がありますので、それらを利用するようにしてください。その際、「推薦書」については担任の先生に記入してもらうものになりますので、余裕を持って渡すようにしましょう(※どのような様式であれ、「推薦書」は決して3年生諸君が自分で記入するものではありません!)。大学によっては、かなりの分量の文章を書いてもらわなければなりませんので、ギリギリにならないように気をつけてください。

ただし、東日本国際大学やいわき短期大学のように、指定校制についても他の入試と同様、同じ要項に提出書類の様式がセットになってまとまっているケースもありますので、注意してください。東日本国際大学といわき短期大学については、指定校制に限らず、すべての入試で、「奨学生申請書」を提出していただくことになっていますので、忘れないようにしてください。「スポーツ推薦」については、「スポーツ奨学生」で提出していただくことになりますが、それ以外の生徒については、本校生は「附属高校奨学生」という扱いになります。なお、本校生は東日本国際大学といわき短期大学については、どの入試においても受験料は不要になりますので、ご注意願います。

面接対策については、『進路活動のてびき』の質問項目を参考にノートを準備し、できるだけ多く練習するようにしてください。その際、各先生方にチェックしてもらうページがありますので、評価していただき、注意点なども記入してもらうと良いでしょう。それらを参考に少しずつ良くなるよう努力してほしいものです。なお、東日本国際大学といわき短期大学については、直前に2~3人で数回にわたって進路指導担当で面接練習の機会を設ける予定です。

前号でお伝えしたように、今年度から推薦会議の前までに「推薦受験願・誓約書」を提出してもらうことになりました。そもそもこの「推薦受験願・誓約書」を提出してもらうのは、「合格したにもかかわらず辞退します」とか「校長先生から推薦の許可が下りたにも関わらず、受験しません」といったことを避けるためです。より受験に対する意識を高く持つもらうために、推薦会議の前までに提出してもらうことになりました。したがって、いろいろ受験に対する不安などはあることと思われますが、変更・撤回することのないよう、よく考えて提出するようにしてください。

■ 出願上の注意！

進路活動にあたって、本校では「就職（※縁故関係を除く）については必ず学校を通して書類発送をするが、進学についてはこの限りではない」ということで進めてもらうことになっています。左にも記したように、11月から推薦入試が本格化していきますが、学校推薦型選抜の指定校制や公募制、スポーツ推薦および総合型選抜を問わず、志願票などが煩雑な場合がありますので、担任や進路指導担当によく確認してもらったうえで出願するようにしてください。入試の種類だけでなく、同じ選抜方式でも試験日が複数回あるケースもありますので間違わないようにしましょう。



■ 3年生の就職決定状況

3年生の就職希望者の決定状況ですが、一般企業、公務員（※現段階では1次試験）を問わず、比較的良好です。一部、採用人数が少なかったり、条件が厳しかったりする企業については、思うような結果が得られなかったケースもありましたが、そういった生徒には、気持ちを切り替えて新たな企業を探すよう指導しています。じっくり考えて選択して欲しいと思いますが、9月の高校生就職試験解禁前と違って、どうしても多くの人希望するような人気企業の募集活動は終わっている可能性があるため、自分が本当に行きたいと思える企業を受験できるとは限りません。それでも、最後まであきらめずにがんばって欲しいと思います。今後も、提出書類は変わりませんので、これから受験する人は高校生専用の履歴書様式（※進路指導室で配付）に書くようにしてください。学校側で鑑（挨拶文）と調査書（※調査書の申請は各自で行い、進路指導室に提出のこと）を準備します。

職場見学のときもそうでしたが、採用試験の結果が届いた際には、お礼状を書いてもらうことになっていますので、これから結果が出た際には、必ず書くようにしてください。今年度はコロナ禍ということもあり、特に企業訪問はしていませんが、以前に卒業生を採用いただいた企業を訪問した際、（特に入社後もがんばっている場合には）採用担当者はうれしそうに高校在学中に出したお礼状のことを話されることがあります。「入社後もつながっていく」という意識で心を込めて書くようにしましょう。



■ 調査書等は開封無効です！

3年生のみなさんで進路活動中に、厳封して渡している調査書を開封してしまったというケースが2件ほどありました。基本的に、「開封無効」と言って渡しているのですが、誤って開封してしまったようです。左にも記したように、11月以降は推薦入試が始まります

	数学	英語		
		4	5	
5	5		音楽	
	美術	体育	技術家庭	5
	5	5		

し、1月以降は一般入試のシーズンに突入します。特に11月中に推薦入試を受験する者は、「推薦書」も厳封して渡していますので開封しないように気をつけてください。なお、基本的に、調査書と推薦書は同封して渡していますが、何らかの理由で同封できなかった場合には別々に厳封して渡しています。

■大学入試情報



大学通信の『UNIV PRESS NEWS』VOL.4 から、以下の大学入試情報を引用しましたので、確認しておいてください。

学校推薦型選抜の出願が来月から始まり、総合型選抜の試験も始まった。2022 年度入試の前半戦がスタートした。

一昨年の 2020 年度入試では、大学入学志願者が延べ数で 2%減少した一方で、推薦入試（現・学校推薦型選抜）と AO 入試（現・総合型選抜）の志願者数は国公立の別を問わず増加した。中でも私立大は、推薦・AO 入試合格者が入学者の 56.5%を占め、過半数を超えた。

私立大では入学定員の厳格化によって一般入試が難化。国公立大も大学入学共通テストで 7 科目受験と負担が重く、一般入試に向けた対策をしながらも、総合型選抜や学校推薦型選抜を受験する生徒が年々増えている。

2021 年度入試のデータはまだ文部科学省から公表されていないが、大学入学共通テストが初めて実施されたこと、コロナ禍の状況下での入試だったことで、学区推薦型選抜や総合型選抜の受験を希望する生徒は増加したと見られる。ただ、昨春は学校生活が一変し、1 学期は進路指導に十分な時間がとれなかった高校も多かった。さらに、運動部などの大会や資格・検定試験が中止や延期になって自分の能力を示す資料が用意できず、出願をためらう生徒もいたようだ。例年なら、受験機会を広げる入試となるところだが、昨年は勝手が違い、積極的な活用が難しかった。

2022 年度入試も感染症対策を十分に講じた上で行われることに変わりはない。文部科学省は学校推薦型選抜や総合型選抜では面接やプレゼンテーション、授業参加などで ICT 機器を活用した選考を行うこと、その際、通信環境による不利がないようにすることなどを各大学に通知した。

総合型選抜では、近畿大が新設の情報学部で、インターネット上の動画サイトやオンライン会議システムを利用する入試を導入する。今後、感染症の状況にかかわらず、大学へ出向かなくても受験ができる選考方法として、オンライン入試が一般化していくだろう。

また、国公立大でも学校推薦型選抜、総合型選抜の志願者数が年々増加している。試験は秋に行われ、大学入学共通テストを利用する方式の場合、合格発表は 2 月まで待たねばならない。私立大のように早く結果が出るわけではないが、受験機会を増やすことができる。2022 年度入試で学校推薦型選抜を実施する国公立大は 170 大学 486 学部、総合型選抜は 102 大学 335 学部。国立大は募集人員全体の 19%を、公立大は 31%をこれらの選抜に充てている。

■ 2、3年生の修学旅行に関連して



3年生諸君が3月末の修学旅行で訪ね、2年生諸君が来週の修学旅行で訪ねることになっている松本城（長野県）は、戦国時代の永正年間に造られた深志城が始まりで、現存する五層六階の天守の中で「日本最古」として知られる国宝の城です（※2、3年生ともに、修学旅行に不参加の生徒もいます）。福島県民にとって、「城（天守）」と言えば、会津の「（通称）鶴ヶ城」を思い浮かべる人が多いのではないかと思います。会津の白壁の天守に対して、俗に「烏城」とも呼ばれる黒い天守の城に、すでに訪ねた3年生諸君はどのような印象を持ったのでしょうか？

筆者も大学生の頃、松本城を訪ねたことがあります。夏にゼミの仲間たちとあるゼミ生の実家で営んでいる安曇野（あづみの・長野県）の山荘で数日間にわたって合宿をした際に訪ねました（※ちなみに、正規のゼミ合宿は夏と春に三浦半島の神奈川県逗子市で行うのが定番でした）。その合宿では、北アルプスの麓（ふもと）にある安曇野の美しい情景に触れたり、バーベキューをはじめとする野外活動のようなことをしたり、時には周辺に多い美術館巡りをしたり・・・と、自然や文化に浸（ひた）りながら、何らかの討論をした思い出があります。松本城を見学したのは、現時点ではその時が最初で最後になりますが、近辺にある明治初期（文明開化の頃）の小学校の代表的な建築物として知られ、令和元年に国宝に指定された旧開智学校（※筆者が訪ねた当時は国の重要文化財）も含めて、文化の薫り高いところだなという印象を持ちました。

福島県内の小中学校はもちろん、現在、本校に在籍し、東京など関東方面から来ている諸君も、小中学生の頃に修学旅行などで会津を訪ね、鶴ヶ城を見学した人は多いと思います。展示されている資料や歴史の授業などで、戊辰戦争で大きく損傷した鶴ヶ城の写真を見てショックを受けた人もいるのかもしれませんが。損傷した当時の城は、「廃城令」により明治初期に取り壊されました。現在の天守は、昭和40（1965）年に鉄筋コンクリート造で外観を復元したもので、内部は郷土博物館になっています。松本城の天守は、安土桃山時代末期から江戸時代初期に建造されたもので、最上階まで行くには各階ごとに狭く急な階段を上らなければならない、鶴ヶ城や大阪城、名古屋城などのような復元天守では得られぬ、貴重な経験になったことと思います。松本城天守からは常念岳をはじめとする北アルプスの山脈の美しい眺望を楽しむことができた記憶があります。3年生諸君に修学旅行後、感想を聞いたら、「黒いお城で迫力があつた。最上階からの景色がきれいだった。」と話していました。

筆者が昔、卓球でお世話になり、現在はクラブチームの指導者として、子どもたちを全国大会で各地を連れて回りながら、昨年亡くなられた奥様と日本の百名城を訪ね歩き、ついに達成された方がいます。筆者も城巡りは好きで、全国の著名な城を30か所ほどは訪ね歩いています。百名城訪問達成には遠く及びません。ただし、国宝の城は、松本城を含む全国5か所のうち、4か所は訪ね歩いており、あと1か所を残すのみとなっています。その1か所とは、木曾川のほとりの小高い山に建てられた平山城で、最近の調査結果から現存する「日本最古の天守を持つ」とされた城です。さて、この城はどこでしょうか？
分かった人は清水まで！

文責：清水聖（進路指導主事）